法学部・経済学部における夜間部教育への取り組みについて

法学部では平成七年度に、経済学部とともに昼間部が東広島キャンパスに移転し、東千田キャンパスでは、第二部が存置されるとともに、昼夜開講制に移行し、その年度の新入生から夜間主コースが発足した。事務組織および教官研究室は東広島キャンパスに移り、東千田キャンパスには東千田事務室二発足当時事務官五人体制」が設けられた。

二つの異なるキャンパスで教育を行うことについては実施前から困難が予想され、このため法学部では、それに伴う障害を少なくし、教育を円滑に行うよう努力してきた。

広大フォーラム第二十八期二号に二部学生の投稿による「夜間学部生のつぶやき」と題する記事が掲載され、学生から見た東千田キャンパスの様子が述べられた。

ここで、東千田キャンパスにおける法学部の教育についてのこれまでの取り組みと今後の課題を述べることにしたい。

一　授業関係

東千田キャンパスにおける法学部の授業は、現在のところ「研究指導」の開講数が減っている以外は、移転前に比べて変わってはいない。他方、「法と実務」、「国際ビジネスと英語実務」、「金融ビジネスと法務」などの昼間部にはない授業を導入し、実務的教育にも力を入れている。これらの授業では、弁護士、民間会社の専門家などを講師として招いている。

また平成八年度には、いわゆる双方向授業を実験的に行っている。これにより、東広島キャンパスにおける授業を東千田キャンパスで受講することが可能となった。このような双方向授業は、授業を映像と音声で送るものであり、映像がコマ落としのために多少画面が見にくいが、授業に支障をきたすほどではなく、また、東千田の教室から東広島の教室に質問することも可能であり、将来ともに授業の装置として有効に機能することが判明した。双方向授業は、東千田地区の学生にとっても、昼間部の授業を東千田にいながら受講できるというメリットもある。

その他、夜間主コースは、第二部と異なり修業年限は四年であり、五年で卒業する第二部より授業科目の選択が多少窮屈ではあるが、開講科目について四年で卒業することが可能なように配慮がなされている。

二　学生面談室、「学生と教官が語る夕べ」など

法学部では、東千田で学生面談室を設けて、午後五時から五時四十五分頃まで教官が交代で学生の教育、生活、進路等さまざまな問題について相談に応じている。

また、移転、夜間主コースの導入、新校舎の建設など転換期における教育に関して、学生の不安を少しでも取り除くために、東千田の学生を対象とした説明会あるいは「学生と教官が語る夕べ」をこれまでに数回開催してきた。これらの会は、参加学生の数は必ずしも多くはなかったが、授業、教室その他の教育環境、サークルその他の問題について、学生の切実な心配あるいは要望を聞く有効な機会であった。学生の意見のいくらかは、新校舎建設についての施設部との交渉における法学部の意見の中に含められた。

その他就職問題についても、就職説明会を早期に開催するなど積極的に取り組んでいる。

法　学　部

法学部夜間学部主事
水上千之（Mizukami, Chiyuki）
法学部夜間主コース主任
紺谷浩司（Kontani, Koji）

三　今後の課題

最後に、今後の課題をまとめて述べておくことにする（なお、以下では施設等の教育環境の問題など経済学部と共通の問題が含まれる）。

東千田キャンパスの教育を充実するために次のことが考えられる。双方向授業については、今後とも提供する科目を検討し、授業方法も工夫をこらす必要がある。また、東千田から東広島キャンパスへ双方向授業装置で授業を送ることも検討されなければならない。また、学外の大学教員・実務専門家の講師としての招請を増加し、授業内容の充実化が図られなければならない。それとともに、法学部教官の東千田キャンパスでの夏季休暇等における集中講義の実施の充実も、検討される必要がある。

なお、総合科学部教官による東千田キャンパスでの授業については、現在、三キャンパス・ワーキングで検討されている。

体育の授業のための施設については、新校舎の完成後は体育室において、バレーボール、バスケットボール、バトミントン等は最小限可能であるが、サッカー、ラグビー等の屋外の競技はグランドの確保が難しく、学外の施設を借用しなければならない。

施設等の教育環境の問題については、次の問題が考えられる。

平成九年の緑化フェアーならびにその後の跡地利用施設建設に伴う騒音等の教育環境悪化が、最小限に抑えられることが望まれる。なお、現在の教室その他は旧教育学部の建物を使用しているために、教室が暗い、トイレの数が少ないなど学生側に不満があるが、この点については、校舎の新築・改築（一期工事）が完了し平成九年度から新しい校舎を使用するようになれば、解消するものと思われる。

また、東千田地区学生のための図書についても、充実させていく必要がある。

現在、サークル活動は、外部の施設を借りるなど苦しい状況にあるが、校舎完成後も必ずしもすべての体育サークルに十分な練習場所があるわけではなく、学部としてもサークルの練習場所の確保のため援助しなければならない。

東千田地区のスペースの関係で、駐車場の確保が非常に難しい状況にある。将来的に、学生の自動車通学は、特別な場合を除いて禁止する措置も必要であると考えられるが、何らかの方法で駐車場を確保する方法も考えなければならない。

おわりに

法学部としては二つのキャンパスに分かれているが、今後とも経済学部と協力して、学生、教官、職員が一緒になって、夜間部充実のために頑張っていかなければならない。

経済学部は、平成七年度から東広島と東千田の異なるキャンパスでの昼夜開講制に移行して一年半が経過したところであるが、新制度の下での夜間部教育の問題点を点検・評価し、現状における課題について述べてみたい。

一　昼夜開講制の点検

昼夜開講制の実施により、夜間主コースの学生は、従来の第二部（五年課程）と異なり、四年間で卒業できるようになったというメリットがあるが、昼間の授業を履修できない学生にとっては、授業科目を選択する自由度が少なくなり、若干窮屈になるという問題点が出ている。

このため経済学部では、本年度後期に、テレビ会議システムを利用した東広島と東千田との双方向授業を実験的に試行し、夜間主コースの学生が、キャンパスの移動をしなくても選択できる授業メニューを提供する可能性の検討を始めた。また来年度からは、従来の夜間の授業時間帯の前に、新たな昼間の授業時間帯を設け、夜間主コースの学生の受講可能性を広げることを検討している。

第二に、勤務の都合で昼間の授業を履修できない学生のためには、夏季休暇を利用した授業や、放送大学との単位互換制度の採用などの抜本的な措置を考える必要がある。

第三に、同じ東千田キャンパスで学ぶ学生でありながら、第二部の学生は、夜間主コースの学生に認められている昼間授業の履修が認められていないことに、不満を持つ学生が増えており、過渡的な措置が必要になっている。

二　多様な学習ニーズへの対応

経済学部第二部及び夜間主コースでは、一般選抜に加えて、推薦入学や帰国子女・中国引揚者等子女・社会人に対する特別選抜などの多様な入試制度を採用し、多様な学習ニーズに対応してきた。さらに平成九年度からは、夜間主コース第三年次編入学生を募集することになっており、これまでの学士入学制度と併せて、再学習の意欲を有する社会人の期待に応えることになろう。

このような入試制度の多様化により、学生の多様化が進んでいることから、授業メニューも多様化する必要がある。このため経済学部では、昼間コース・夜間主コースともに基礎的な授業科目を履修した次の段階で、学生の多様な学習ニーズに対応する授業科目を、履修することができるようなカリキュラムの検討を行っている。

そのため現在、授業科目が減少しているが、来年度からまず夜間部において、公認会計士、税理士などの資格所有者や、企業の経営者・実務者に非常勤講師をお願いし、実践的な実務教育に関わる授業科目を開講する予定である。

さらに、今後ますます増大する社会人の生涯学習ニーズに対応するためにも、全学的な協力の下に開講されている公開講座や、リカレント講座への在学生の出席を認め、単位も出せるようなシステム作りを検討する必要があるように思われる。

経　済　学　部

経済学部夜間学部主事・
夜間主コース主任
松水征夫（Matsumizu, Yukuo）

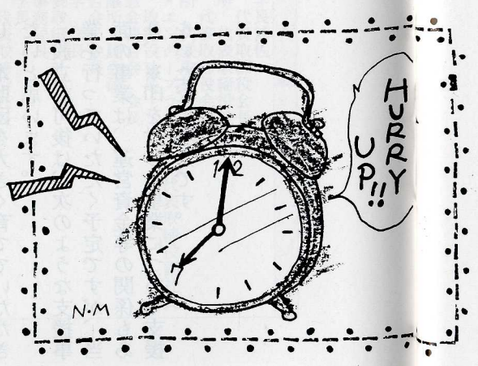
三　学生生活環境の改善を目指して

現在夜間部の新校舎建設の一期工事が進行中で、そのために課外活動施設や駐車場の確保が難しくなっているという問題は、今年十二月に工事が竣工し、来年四月に新校舎での授業が始まる時点で、ある程度解決に向かうであろう。しかし現在使用している旧教育学部の校舎は、来年二月に新校舎への移転が完了後、順次取り壊すことになっているため、現在使用中の施設を改善するための十分な予算的措置ができないことから、壊れたままになっている施設も散見されるが、可能な限り生活環境の改善には努めていきたいと考えている。

また校内の美化については、日頃学生諸君にも協力をお願いしているところであるが、教室の清掃の役務費や、光熱水料代が校費を圧迫している現状においては、学生諸君にも一層の協力をお願いしたい。

四　今後の課題

最後に、経済学部では、平成七年度から東千田キャンパスに学生面談室を設け、教官が交替で学生の修学・奨学、進路及び大学生活などに関する相談にのっているが、今後とも学生諸君の要望に十分応えることができるように努力したい。

また平成八年度からは、夜間部の責任体制を明確にするため、経済学部では、夜間学部主事（夜間主コース主任）と夜間主コース副主任が東千田キャンパスに常駐することになった。こうした措置によって、学生諸君と教官・事務官との密接な連絡・調整が可能になるものと考えられる。

さらに東千田事務室でも、平成八年度から事務官が増員され、学生へのサービス向上に心がけてもらっているが、平成九年度からは事務局が東広島キャンパスに移転するため、東千田事務室の一層の充実が必要になるので、全学的な幅広いご支援をお願いしたいと考えている。